

教材名：鴨池とともに生きる	
主題名：自然のためにできること	内容項目：D (20) 自然愛護

1 ねらい 自然のために地域の人々が様々な努力をしていることに気づき、自分にできることをしようとする心情を育てる。

2 授業展開例

学習活動（主な発問と予想される児童の反応）

◇ 映像資料を活用してカモや鴨池を紹介し、興味を持たせる。

（鴨池がラムサール条約登録湿地であり、トモエガモにとっては国内最大級の飛来地になっていることを解説する）

① 映像資料を見てどんなことを思いましたか。

- ・こんなにカモがたくさんいるところを初めて見て驚いた
- ・石川県に国内最大級のカモの飛来地があると初めて知って驚いた
- ・カモにとって居心地のいい自然が保たれているのがすごいと思った

◇ 教材を読んで話し合う。

② 「ふゆみずたんぼ」の取組に参加してくれるよう頼まれたとき、杉山さんはどんな気持ちだったでしょう。

- ・カモのためにそうすることがいいとは分かるが、作業が大変になるのはいやだ
- ・カモが戻ってくるかも分からないのに、そんな苦勞をしたくない

③ 杉山さんが「ふゆみずたんぼ」に取り組もうと決めたのは、どのような思いがあったからでしょう。

- ・鴨池のカモの数を増やし、自然を守りたい
- ・観光客にカモが少ないと言われ、自分にできることをしたい
- ・鴨池をカモがたくさん来た頃のようにしたい
- ・カモがどんどん減っていくのを放っておくことはできない

④ 杉山さんは、戻ってきたカモをどんな思いで見えていたでしょう。

- ・カモが戻ってきて良かった 「ふゆみずたんぼ」に取り組んだかいがある
- ・作業は大変なこともあるが、カモのためになるのならこれからも頑張りたい
- ・「ふゆみずたんぼ」のおかげで自然が豊かになってきてよかった

◇ 映像資料のインタビューを視聴し、自然を守ることについて感じたことや考えたことを書く。

3 指導上の留意点及び工夫

- ・カモや「ふゆみずたんぼ」の映像を見せた後、カモや鴨池を守るために農家の人がどのような思いで、何をしているのか課題意識を持たせて範読を聞かせるとよい。
- ・終末では映像資料を見た後、人間と自然や動植物との共存の在り方を考えながら、自分自身は身近な生活の中でどんなことができるかについて考えさせたい。

4 参考資料

- ・映像資料集（小学校高学年）「10 鴨池とともに生きる」

教材名：鴨池とともに生きる	
主題名：自然のためにできること	内容項目：D (20) 自然愛護

1 ねらい 自然のために地域の人々が様々な努力をしていることに気づき、自分にできることをしようとする心情を育てる。

2 授業展開例（ゲストティーチャーをGTと示す）

学習活動（主な発問と予想される児童の反応）

◇ 身近な自然を守るために活動している人について話し合う。

① 自分たちの地域にはどんな自然がありますか。また、その自然を守る活動をしている人を知っていますか。

- ・〇〇川の生き物を守るために活動をしている人がいる
- ・総合的な学習の時間に、インタビューしたことがある
- ・希少な生き物を守るために、地域の森の環境を守っている人がいる

◇ 教材を読んで話し合う。

② 「ふゆみずたんぼ」のことをどう思いますか。

- ・反対する人も多かったのに「ふゆみずたんぼ」に取り組む人が増えて、カモが戻ってきてよかった
- ・カモを守るために頑張っている人がいてすごいと思った
- ・米作りが大変になるのに、カモのために「ふゆみずたんぼ」に取り組んでいるのがすごいと思った
- ・カモのためだけではなく、他の自然も豊かになっていいなと思った
- ・「ふゆみずたんぼ」に取り組むのはいいが、作業が大変で苦勞しているのかな

③ どうして杉山さんは大変だと知りながら「ふゆみずたんぼ」に取り組むのでしょうか。

- ・カモを守りたいから
- ・昔のようにカモがたくさんいる鴨池にしたいから
- ・カモを守るために自分にできることをしようと思ったから
- ・カモがえさを食べられないとかわいそうだと思ったから
- ・鴨池の自然を守って未来に残したいから

◇ GTの話聞き、自然を守ることについて感じたことや考えたことを書く。

- ・カモだけでなく、その他にも様々な人が活動をして自然を守っているのだな
- ・今の自然がこれ以上壊れていかないように、自分もできることをしていきたい

3 指導上の留意点及び工夫

- ・③ではグループで話し合ってもよい。
- ・「私たちの道徳」（P110～111）の「自然の偉大さを知って」を活用し、BGMを流しながら言葉や写真をプレゼンにして提示し、余韻を残して終わるのも効果的である。

4 参考資料

- ・映像資料集（小学校高学年）「10 鴨池とともに生きる」